

夏



夏
2007

3 【学長コラム】

大学の近況

学長 柳澤 保徳

4 特別支援教育研究センターの設置 特別支援教育研究センター長 岩坂 英巳

奈良教育大学天文台の復活 理科教育講座・准教授 和田 穰隆

オープン・サイエンス・ラボ 融合理数GP代表・教授 松山 豊樹

奈良教育大学で保育士養成がスタート 学校教育講座・准教授 横山 真貴子

6 奈良教育大学に期待するもの— 奈良県教育の充実・発展にむけて —

奈良県教育委員会教育長 矢和多 忠一

8 【ラボレター】

古典文学研究の醍醐味

国語教育講座・教授 永池 健二

子どもへの支援を通して楽しさを

特別支援教育研究センター長・教授 岩坂 英巳

基礎・基本を大切にしたい教育と研究

学校教育講座・教授 藤田 正

ことば・心・文化

英語教育講座・教授 吉村 公宏

子どもの目線で環境をとらえる

社会科学教育講座・教授 岩本 廣美

スポーツの魅力: 行う楽しさ/見る面白さ

保健体育講座・准教授 高橋 豪仁

困難を抱える子ども・青年に権利としての教育を

教育実践開発講座・准教授 越野 和之

3K・4Kがまんして動物の追跡

自然環境教育センター・准教授 鳥居 春己

12 【ひと・あれ・これ】

韓国で「こんにちは！」

長安大学観光通訳日本語学科専任講師 笹本 明子

夢の甲子園へ

愛知県立中村高等学校・教諭 田川 誠

北の大地での教員生活

北海道東海大学工学部海洋環境学科・講師 斎藤 裕美

子どもたちの成長が1番のやりがい

岸和田市立東光小学校・教諭 高見 真依

いつも「子どもたちのために」という思いで

奈良県警察本部生活安全部少年課・課長補佐(少年サポート担当) 植村 育代

知的財産の出前授業に関わって

大西特許事務所弁理士 大西 正夫

出会いを大切に

岡山リビング新聞社・編集部 東田実 永子

絶対に絶対に絶対にできる！

奈良県総務部統計課調査第一係 温品 豊永

16 【留学生レポート】

私の留学体験記 in ハイデルベルク

総合教育課程生涯学習コース4回生 山根 絵美

韓国に留学して

大学院教科教育専攻2回生 佐伯 朋子

私が見た留学

日本語・日本文化研修留学生(ドイツ・ハイデルベルグ大学) ミットマン クリストフ

人生の中のかげがえのない宝物

学校教育教員養成課程言語・社会コース 韓 浙竹

18 【北から南から】

西安外国語大学を訪ねて

学生支援課長 荻野 正之

19 【課外活動】

茶道部 心を育む空間を求めて・・・

総合教育課程 生涯学習コース 3回生 茶道部部长 阪井 香織

バスケットボール部 仲間と共に

総合教育課程芸術文化コース 3回生 女子バスケットボール部主将 松岡 奈々

20 【大学の仲間たち】

クロコノマチョウ 自然環境教育センター長 前田喜四雄

表紙紹介

オープンキャンパス

表紙題字 名誉教授 池田桂鳳

昨年度のオープンキャンパス(大学説明会)の模様。約700名の受験生・高校生及び保護者等が参加されました。今年度は7月28日(土)の午前10時からと午後1時40分からの2回、本学の講堂で行います。

学長から受験生の方へのメッセージの後、本学及び平成20年度における入試の概要を説明します。続いて、コース・専修毎の体験授業、在学生によるキャンパスラリー、受験生の質問に答える相談コーナーなどを実施。また、美術科学生の彫塑・絵画展も同時に開催します。

大学の近況

新入生の皆さんは、大学生活にも慣れたことと思います。

5月下旬には、関東を中心に流行していた麻疹（はしか）が関西にも拡がり、本学でも学生の発症報告を受けて感染防止のため1週間の休講措置を講じました。教育実習等で学校に向く予定の学生の皆さんは休講期間中に「抗体検査」を受けた方も多かったと思います。結果として3人の発症でしたが、教育大学として、本人の健康とともに、学校等で知らないうちに麻疹の感染源となつてはいけなさと判断した対応でした。

これからも、子どもたちと向き合う教員という将来の立場を理解して、正しい知識と理解に基づいて健康の自己管理に心がけていきましょ

さて、本学も国立大学法人となつて4年目を迎えました。最近になって国立大学法人の運営費交付金問題が注目されています。本学の運営にかかる経費は、主に授業料等の学生納付金と国から各大学法人に配分される運営費交付金によつています。現在、運営費交付金は毎年1%づつ減額される仕組みですが、特に教職員人件費の占める割合が高い単科教育大学では、その対応に多大の努力を必要としています。

新聞報道によれば、財務省は各大学の競争的研究経費の獲得状況に応じた運営費交付金配分のシミュレーションを試算として公表しています。相対的に研究費獲得実績が低い地方大学や単科教育大学などは運営費交付金が大幅に減額になるなど、今後その存続が危ぶまれる状況すら

予見させるものです。

地方大学や単科教育大学は、法人化後も、その地域の高等教育の拠点として、人材育成や学術研究の推進、それらを通じた地域への貢献を使命として歩み続けています。

本学も、この奈良の地で、教員養成のモデルの一つとなるような学士課程の改革を進め、また大学院課程では、教職大学院の平成20年度設置に向けて取り組んでいます。このような大学の活動を支える上で、運営費交付金は基盤的経費となつています。国立大学法人の運営費交付金の確保にご理解・ご支援をお願いいたします。

地方大学といいましたが、奈良教育大学は、地元出身者とともに全国各地から学生が集まる大学でもあります。それは、京都と奈良、わ



柳澤 保徳
奈良教育大学 学長

けても奈良は日本文化の源流の地として世界遺産にも登録された杜寺が1300年近くにわたつて多く点在し、学生の皆さんにとってはきわめて恵まれた文化環境にあることによるからだと思えます。そのことは海外からの留学生が多いことにもあらわれていきます。

最近、大学の地域経済への波及効果が論ぜられることがあります。小規模単科大学である本学にとつては、そのことよりもむしろ全国各地から古都奈良に集う同世代の若い学生の皆さんの存在が、学内外での様々な活動を通じて地域文化の活性化につながっていくことにあると思えます。そのことを、地方国立大学のレゾンデートル (raison d'être) の証の一つとしたいと思えます。

大学の取り組み

特別支援教育 研究センターの設置

特別支援教育研究センター長

岩坂 英巳

学校教育においては、平成19年度から特別支援教育が全面的に展開され、従来、特殊教育の対象となっていたいなかった学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、高機能広汎性発達障害（PDD）など、通常学級に在籍する軽度発達障害を持つ子どもたちへの対応が課題となっています。

このため、本学ではこれまでの研究教育と地域との連携の実績を踏まえ、「特別支援教育高度実践モデルの開発・推進事業」を実施することとしました。特別支援教育にかかわる教育研究の課題に対応して、有為な人材の育成と地域の特別支援教育への支援を充実し、地域の期待に応え、教員養成大学としての責任を果たすため、平成19年3月23日に特別支援教育研究センターを設置し、医療、心理、教育等の専門性を有する専任スタッフを配置しました。

センターは、「教育実践支援部門」「発達支援部門」の2部門から構成されており、教育実践支援部門は教育関係者向けに教育相談を地元の教育委員会との連携を図りながら、実施しています。発達支援部門は、本人・保護者向けに発達相談、心理発達検



開所式にて（右側）

査、コンサルテーション、親子並行面接、巡回専門相談を有料で実施しており、ペアレントトレーニングやソーシャルスキルトレーニング（SST）などの専門プログラムも実施しています。

また、ペアレント/ティーチャートレーニング指導者養成講座、SST体験講座など人材養成のための研修会や一般向けの公開講座などを開催しています。

今後、学内外に認知された特別支援教育の高度実践モデルを推進するセンターとして地域に根ざした継続的な事業を展開していく予定です。

特別支援教育研究センターのホームページ

<http://www.nara-edu.ac.jp/CSNE/csne-index.htm>

奈良教育大学天文台の復活

理科教育講座・准教授

和田 穰隆



修理完了した反射望遠鏡の搬入作業のひとつコマ

奈良教育大学には天文台がある。理科一号棟の東端の屋上、銀色のドームがそれである。中には口径30センチメートルの反射赤道儀が設置されている。平成19年3月末、このドーム及び望遠鏡の修復が完了し、天体観測・観望に使えるようになった。そもそもこの天体望遠鏡は昭和46年3月末に設

置され、長らく天文学分野の研究・教育に活用されてきた。筆者も本学の学生であった頃、この望遠鏡で観測した経験がある。だがその後は望遠鏡の老朽化が進むと同時に機能が時代遅れとなり、また天文学分野の教員が退職・不在となった。このため、その存在がほとんどの人の記憶から失せかけていた。

望遠鏡を修復することになったきっかけは二つある。一つは学部講義「天文学」の担当（当時）であった和歌山大学の富田晃彦先生からの助言、もう一つは本学で実施中の「新世代を先導する理数科教員養成プログラム」（先導理数）の始動である。富田先生は、集中講義にいられた際に天文台を御覧になり、修復についてのアドバイスをされた。事実、月や星は児童・生徒の非常なる興味の対象の一つであり、本学の理系学生においても天文学を勉強したいという者は少なくない。そこで地学教室として望遠鏡の修復を模索し始めていた。丁度その頃「小・中・高の理数科の内容を深く理解し、それらの積み上げを一貫して見通せる専門性を持った教員の養成」を目的とする先導理数が平成17年度から始まったのである。多くの教育研究機材が手当てされる中で幸い望遠鏡・天文ドームも修復されることになった。

現在、天文台では天体観測・観望ができるよう準備を進めている。その設置・調整中に一度、望遠鏡で土星を眺めたことがある。昔と変わらず、土星はとても美しく「可愛い」天体であった。星を見ることは、自分たちの星と違う星があることを認識することである。その認識を多くの人に持つてもらいたいと思うし、とくに子どもたちと、子どもたちを教える理科の教師には尚更である。今後、星を見る機会を、本学の新しい天文台を使って計画・実施していければと考えている。願わくば、その折には学内の灯火、とくに街灯やグラウンドの照明設備を是非とも消していただきたいと思う次第である。

大学の取り組み

オープン・サイエンス・ラボ

融合理数G P代表・教授

松山 豊樹

「オープン・サイエンス・ラボ」は、文部科学省の「平成18年度資質の高い教員養成推進プログラム（教員養成G P）」に採択された本学の教育プロジェクト「高大融合による理数科高校教員の養成」（略称：融合理数G P）で、その設置・運用が企画・立案されました。プロジェクト始動後、実験室のレイアウトを固め、改修工事を経て、平成18年12月1日、理科2号棟2階の一角に設置されました。

オープン・サイエンス・ラボは、高校での理数科教育を支援するために学内に設置された地域の高校に開かれた実験室です。その目的は高校生、高校現職教員、本学学部生・大学院生、大学教員が一体となり、実験を中心とした活動を通じて本物のサイエンスを楽しむ場を提供することにあります。そのため、教育研究員を中心とした実験機器の保守・管理、実験メニューの開発や実験用マニュアルの作成が続けられています。

また、現職の先生たちに実際に実験機材を使ってもらい、高校の授業で活用して頂くために機材の貸し出しも計画しています。現在は、融合理数G P連携協力校を中心にオープン・サイエンス・ラボの運用が行われていますが、ゆくゆくは少しずつ連携協力校を増やし、広くオープンにする予定です。

もう一つの重要な役割は、現職高校教員による融合理数G P参加学生への教材・カリキュラムの研究・開発を指導する場を提供することです。現在、週2回のペースで実際に連携協力校の現職教員に大学に来て頂き、より実践的な指導が続いています。この8月には、現職教員、本学学部生・教員の連名で、その成果が学会発表される予定で、全国的にも突出した取組となっています。また、現職教員自身が生徒

への指導のスキルを上げるために、

大学教員と連携して教材・カリキュラムの開発を行っています。既に、大手民間企業が公募した教材コンテストに応募し、賞を受賞するなどの目覚ましい成果を出しています。平成19

年5月23日、文部科学省結城事務次官の視察があり、本プロジェクトの激励を受けました。

オープン・サイエンス・ラボは、決して広くはないスペースです。そこに、数々の実験機材が置かれ、訪れた人は「狭い！」と思うことでしょう。しかし、常時、実験や教材・カリキュラムの研究・開発ができるスペースが用意されていることの効果は絶大です。今後も、本学の理数科教育の拠点として成果を挙げ続けるものと期待しています。



デジタル分光計のセッティング

奈良教育大学で 保育士養成がスタート

学校教育講座・准教授

横山 真貴子

■保育変革の時代の中で

奈良教育大学で保育士資格が取得できるようになりました。幼年教育専修の今年度4月入学の学生からです。これからの幼児教育の担い手には、幼稚園教諭の免許と保育士資格の両方を持っていることが必要になってきているためです。

国レベルでは、昨年10月に幼保一体化施設として

の「認定こども園」制度がスタートしています。幼稚園、保育所といった、従来の枠では捉えられない、新たな保育のあり方が求められているのです。また、奈良市近隣を含め地方の市町村では、少子化に伴い、幼稚園と保育所との人事交流の必要性もあって、従来から幼稚園教諭と保育士の免許・資格の併有が採用の条件となっています。

こうした状況のなかで、これまで奈良教育大学の学生は、自分で「保育士試験」を受験し、資格を取得していました。しかし今や、多様化し複雑化する保育ニーズに対応していくためには、受験して「資格を持つている」だけでは不十分です。資格の中味が問われるのです。

■誕生から児童期を見通した学びと経験を

これからの保育者には幼稚園教諭の資質に加え、保育士としては特に乳児期からの福祉的な観点、子育て支援の視点が必要です。幼保が一体化する中で、さらなる新たな資質も求められます。

奈良教育大学では、「今、保育者に何が必要か」について、保育所、幼稚園、保健所、保育行政、他の保育者養成大学と共に語り合い、築きあげ「保育フォーラム」を開催しています。本学の幼年教育専修では、保育士、幼稚園教諭とともに、小学校一種免許も取得できます。保育変革の大きな波にのまれることな

く、今を生きる子どもたちに必要な支援を、誕生から児童期を見通して行っていく。そうした力量を備えた保育者の養成を、地域と連携しながら、いっそう進めていきます。期待していただきたいと思います。



保育フォーラム

奈良教育大学に期待するもの — 奈良県教育の充実・発展にむけて —

奈良県教育委員会教育長

矢和多 忠一

奈良教育大学は地域に根ざした教員養成大学として、永年にわたって本県の教育に貢献してこられました。また、奈良教育大学と県教育委員会とは懇談会等を開催するなど、一定の連携を図ってきました。

そうした流れを受け、平成15年6月には「教員の資質向上を図るとともに、広く教育に関する諸課題に対応するため、組織的、継続的に相互に連携協力して実践的研究及び活動を行い、その成果を生かして双方の教育研究の充実、発展に寄与することを目的」として「連携協力に関する覚書」を締結しました。以来、定期的に「奈良教育大学と奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会」（写真1）を開催し、教育課題等について共通理解を図り、互いの連携をより確かなものにしてきたところです。

■ 奈良教育大学と奈良県教育との連携

奈良教育大学との連携事業の一つに、教員研修があります。例年、夏に「スクールリーダーのための学校経営研修」を共催しています。また、県内の四年制大学によって構成されている奈良県立大学連合等と県立教育研究所が連携をして「教員のための夏の公開講座」を実施しています。

また、奈良教育大学の各先生方には、県教育委員会が主催する「学力向上推進協議会」や「森林環境教育推進協議会」などの委員長等をお願いし、指導助言をいただいております。



写真1 / 奈良教育大学と奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会

さらに、県内の各高等学校との「高大連携」の取組も行われています。平成18年度に平城高等学校及び高田高等学校に「教育に関心をもち、将来小学校の教員を目指す子どもたちの夢や意欲、職業意識を育てる」ため「教育コース」を設置しました。両校では、教員養成大学や近隣の小学校と連携を図りながら、独自の取組が行われています。

特に、平城高等学校では、奈良教育大学と教

育連携協定を締結するとともに、前副学長の上野ひろ美教授による記念講演、横山真貴子准教授による絵本の読み聞かせの講義や実践指導、豊田弘司教授による「子ども理解」に関する講義が行われました。先日は、宮下俊也准教授を招き、芸術や音楽を学ぶ意味を考える授業が展開されました。（写真2）

奈良北高等学校では、「融合理数事業に関する協定」に基づき、その一環として、吉田明史客員教授による数学を学ぶことの面白さや楽しさについての講義が行われました。（写真3）

青翔高等学校では、「教育特区の推進に関する覚書」に基づき、奈良教育大学の大学院生がサイエンスアドバイザーとして「探究科学」の授業において、生徒の探究活動のアドバイスを果たした（写真4）、大学教授による科学講演会を開催したりするなどの取組が進められています。

■ 教育をめぐる国の動き

平成18年7月「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の中教審答申が出されました。その答申は、今後の我が国の教員養成・免許制度の改革の基本的方向を明示し、教員養成における専門職大学院の在り方や教員免許更新制の導入、教員の資質能力の向上を図るための方策等についてまとめられています。

また、12月には新しい教育基本法が公布・施行されました。先の教育基本法は昭和22年の制定で、およそ60年ぶりの改正です。新しい教育基本法では、これまで謳われてきた「個人の尊厳・人格の完成・平和的な国家及び社会の形成者」などの理念は大切にしながらも、今日求められる教育の目標が定められ、教育の実施に関する基本が改められました。特に、第九条では、

教育連携

教員は研究と修養に励み、養成と研修の充実が図られるべきことが規定されました。

さらに、教育基本法改正に伴う「教育関連三法」が本年6月27日に公布されました。特に「教育職員免許法及び教育公務員特例法の一部を改正する法律」では、教員免許状に10年間の有効期限を定め更新制を導入すること、児童等に対する指導が不適切な教員の指導改善のための指導改善研修の実施等が規定されました。

今後、これらの法律の施行に向け、具体的な準備が進められます。

■教員養成大学として

近年、我が国の社会は国際化、情報化、少子高齢化等を背景に大きな変動期を迎えています。同時に、都市化や核家族化の進行等により、家庭や地域社会の教育力の低下が指摘されています。また、保護者や国民の間からは、学校に対して、学力や体力、道徳性等を確実に育成する質の高い教育が求められるとともに、子どもの基本的な生活習慣の育成等において、学校や教員に多様で、時として過度な期待が寄せられる状況にあります。

先の答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」では、優れた教員の条件について触れ、「教職に対する強い情熱」「教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」などの資質能力を具体的に言及しています。特に、教職課程認定大学には、「教員としての最小限必要な資質能力」（使命感や責任感、教育的愛

情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる能力）を身に付けられるよう改革することが必要と示されました。

教員は子どもたちの可能性を拓く創造的な職業であり、人の人生に大きくかかわる職業ともいえます。そうした教員には、広く国民や社会から尊敬と信頼を得られるような存在であることが求められる、わかる授業を展開する力はもちろんのこと、社会状況の急速な変化や複雑・多様化する教育課題に適切に対応する力、コミュニケーション能力、学ぼうとする姿勢等が求められています。

奈良教育大学では、新たな社会的教育的要請を踏まえ、すでに、大学・大学院における教員養成推進プログラム（教員養成GP）をとおり、教育活動における様々な場面での実践的な対応力を備えた教員養成に取り組みれています。

また、数年前からは「実践的指導力のある教



写真2 / 平城高校教育コース 学びの意味シリーズ「芸術編」の講義



写真3 / 奈良北高校 「数学を学ぶ」の講義



写真4 / 青翔高校 サイエンスアドバイザーによる学習支援

員」の養成を目指した「教職大学院」の設置に向けた準備も進められてきました。このたび、文部科学省において正式に「教職大学院」制度が創設されました。今後、早期に奈良教育大学大学院教職研究科教職開発専攻の開設が認められ、これまで以上に本県教育に寄与いただけることを期待しています。

さらに、教員免許更新制が導入されれば、本県における教員養成大学として、新たな役割を担っていただかなければなりません。めまぐるしい教育改革のなかで、奈良教育大学、県教育委員会が一層連携を深め、より実践的な教員養成や教員研修を実施していく必要があります。

貴学には、教員養成機能のさらなる充実を期待いたしますとともに、本県の子どもたちのために、元気に活躍してもらえ多くの優れた人材を育てていただくことをお願い申し上げます。

古典文学研究の醍醐味

国語教育講座・教授

永池 健二

■古典に遊ぶ
 古典の世界に遊ぶ。心を悠久の時の彼方に解き放ち、作品の行間にしなやかに分け入って、その魅力を味わい尽くす。

古典文学研究の醍醐味は、これに尽きます。古典文学の研究にとって、最も大切な基礎作業は、テキスト本文の厳密な校訂であり、豊富な用例を踏まえた的確な注釈です。勢い、日々の研究活動は、図書館や研究室に籠って古書や古辞書を渉猟する文庫作業の積み重ねですが、そうした一見単調でたいくつなものに見える作業を、いかにも心楽しく創造的なものにしてくれるものこそ、この「遊ぶ」心にはかなりません。

■祭りの庭に遊ぶ

四十路にして全国祭礼行脚の快楽に目覚めました。爾来三十年、繁忙な仕事と虚弱な体力の折り合いが付けば、とりあえず飛び出して行く。神と人が界を越えて交歓する祭りの庭は、古人の生き方や心が凝縮して伝えられた、生活の「生きた古典」ともいえるべき場です。そうした祭りの庭に、自ら足を



平家物語の故地を尋ねて・壇ノ浦、厳島セミ研修旅行

踏み入れ、自らの目で見、体で感じとって、その隠れた意味を一つひとつ解き明かして行く。その試みは、古典文学研究の醍醐味にも通じる実に心楽しい作業です。

■「あかのみあ・やばにか」への誘い

私の所では、「あかのみあ・やばにか」という学生の自主的な学習サークルを開いています。ちょっと大仰な名前ですが、古典と民俗の両面から日本の伝統文化を学び楽しむことを目的としたもので、月一、二回のやさしい古典（たとえば「鉢かづき」や「道成寺縁起」といった）の輪読会を一つの柱に、折々の祭礼神事の实地の見学をもう一つの柱に、活動が続いています。心を悠久の彼方に飛ばし、古典に遊び、神と遊ぶ。この遊びをともに味わってみませんか。

子どもへの支援を通して楽しさを

特別支援教育研究センター長・教授

岩坂 英巳

■なぜ教育大学に精神科医がいるのか

私の専門分野は「児童青年期精神医学」です。4年前にこの大学に来るまでは「医者」をしていました（今も診療は続けていますが）。子どもの精神科医です。心身症、不登校、摂食障害、あるいは多動やパニックなどさまざまな心身のしんどさを持ちながら精一杯がんばろうとしている子どもたちのおつきあいをしてきました。そして、彼らに共通する弱さとして



セミナー主催研修会でのひとコマ

■特別支援教育のススメ

「ソーシャルスキル（いわゆる人付き合いの技術）」と「セルフエスティーム（自分を知り、大切にできる気持ち）」があることに気づき、それらを伸ばしていく治療法を開発・実践していきたく、と約10年前に思い立ち、米留学を経て、気づいたらここにいました。

私の研究テーマは、主に発達障害（ADHDやアスペルガー障害など）のある子どもへのソーシャルスキルトレーニング（SST）やペアレントトレーニングという集団プログラムです。「子どもの良いところに注目して伸ばしていく」、それは治療プログラムとしてなされることもあり、学校や家庭など子どもの日常生活の場においてこれまで当たり前になされてきたことでしょう。特別支援教育とは、これまでの「その子らしさを伸ばす」教育に少し専門性をプラスして、しかもいろんな他職種や親、もちろん本人の意見も取り入れつつ、検証と計画立てを行いながら前に進んでいくものです。子どもたちがスキルを伸ばし、自信を回復し、本来の笑顔を取り戻して成長していく姿を見ることのできる特別支援教育（<http://www.nara-edu.ac.jp/CSE/cse-index.htm>）。そんな楽しい世界に、あなたもサポーターとして足を踏み入れてみませんか。

基礎・基本を大切にしたい 教育と研究

学校教育講座・教授
藤田 正

私の研究：

「認知活動における促進と妨害」

教育・研究においては、基礎・基本を大切にすることを私の基本的な姿勢としています。専門分野は、認知と記憶の心理学です。認知活動における情報処理の促進と妨害のメカニズムを研究してきました。記憶の体制化やプライミング効果の研究では促進的な要因の解明を、記憶の干渉やストループ干渉の研究では妨害的な要因の解明をし



研究室にて指導学生と

てきました。実験では、漢字を刺激として使用したことで、漢字の情報処理特性を明らかにでき、意義のある研究ができたと思っています。認知活動をコントロールするメタ認知や自己調整学習などについて研究する中で、最近では、大学生における先延ばし行動について、先延ばし行動に影射する原因、先延ばし行動に影射すると思われる自己制御力、完全主義傾向、課題への興味、学習意欲などとの関係を探る研究を進めています。

卒業論文・修士論文では

今年、6名の学部生と1名の院生が卒論と修論の指導学生です。記憶の分散効果、学習課題先延ばし行動、アサーションなどが研究のテーマです。構想発表会も終わり、調査や実験の準備に取り組んでいます。厳しい指導の中にも、和やかな雰囲気があふれている研究室です。

地域貢献として

大学の仕事がありますます忙しくなっている現状ですが、日本学校心理学会奈良支部が発足して以来、事務局を担当しています。「学校心理士」は、学校が抱える問題に対する心理教育的援助を行う専門的な資格です。地域の学校心理士の専門的力向上のために、研究会などを企画しながら、会員の皆さんと共に頑張っています。

ことば・心・文化

英語教育講座・教授
吉村 公宏

人間：ことばが創る世界の住人

専門分野は「言語学」です。ようするに、「ことば」です。私の場合、「ことば」と「心」と「文化」に関心を置いています。観察や分析の前に大切なことは、「ことば」を使う人間を好きになるということだと思います。突然ですが、秋川雅史という歌手をご存知でしょうか。そうです。「千の風になって」という歌で有名になったテノール歌手です。

私のお墓の前で、泣かないでください
Do not stand at my grave and weep.
そこに私はいません 眠ってなんかないません
I am not there: I do not sleep.
千の風に 千の風になって

I am a thousand winds that blow.
あの大きな空を 吹きわたっています

(作詞／不祥 作曲・日本語詞／新井満)

『千の風になって』は、アメリカカイン・ディアン・のチロキ族の伝承詩という説があります。聞いたこともない遠くの世界の人が、はるか昔に作った詩なのに、なぜか心に響いてきます。身近な、大切な人を亡くさなかつた人はこの世にだれもいません。もし、その人が「風



卒業式のあとで学生たちと

になって大空に吹きわたっているよ」と教えてくれたなら、少し心が和らぐのではありませんか。ことばは音と意味の結びついた何かです。あまりにも当たり前すぎますか。でも、不思議なのは、音と意味が結びつくだけで、嬉しかったり、悲しかったりすることです。まるで郵便配達人のように、ことばは私たちの心の奥まで何かを届けてくれます。

ことばの不思議

ことばは、今そこにあるモノを指すだけの記号ではありません。見えない、聞こえない、触(さわ)れないコト、つまり時空間を一気に飛んで、想像の世界を創造する力を持っています。ことばは、想像を音や文字に変えることで自分の世界をつくる材料として働きます。地上にある5000の言語は、その言語の語彙・文法・発音で、その言語を話す人々に想像の手段を提供しています。言語学が面白いのは、こうしたことばの力に目を向けて、その言語で生きる人々の心と文化を垣間見ることが出来るからです。

子どもの目線で環境をとらえる

社会科教育講座・教授
岩本 廣美

フィールドワークで子どもの研究

私の専門分野は元々地理学で、子どもを追跡するフィールドワークから研究は出発しました。子どもたちに、日頃遊んでいる場所や「秘密基地」などを案内してもらい、遊び環境の実態を明らかにしてきました。また、子どもが自身の生活領域を描いた地図の分析な



研修旅行



野外でのコンパ

ども行いました。研究の基本は、「子どもの目線で環境をとらえる」ことです。フィールドワークを通して子どもの目線で見ると、大人にとってはただの雑木林が「どんぐり山」や「へび山」として輝きを放ち、子どもたちに豊かな遊び（＝学び）と想像力をもたらす環境となるのです。

現在、私は本学で主として社会科教育および生活科教育の授業を担当していますが、教科の学習素材や学習活動のあり方を考えていくときに、いつも念頭にあるのは「子どもの目線」です。

野外でのゼミ活動

私の研究室（ゼミ）では、資料や文献を使った研究だけではなく、フィールドワークや野外での体験活動を取り入れた調査や諸活動にも力を入れています。最近、「アヒル橋」と近隣の子どもたちが呼ぶところへ、学生と一緒にフィールドワークに行ってきました。本学の近くを流れる大和川支流に架かるこの橋の付近は、子どもたちの人気スポットです。ゼミの活動として、年に二、三回、研修旅行を実施しています。2006年12月には、和歌山県湯浅町に出かけ、シラスの加工業者（写真）やミカン園などを訪問しました。

最近のゼミ生の卒論テーマ例に、「奈良に来訪する修学旅行生の学ぶもの」「学校の休み時間における子どもの遊びの世代間比較」などがあります。

スポーツの魅力！ 行う楽しさ 見る面白さ

保健体育講座・准教授
高橋 豪仁

生涯スポーツ

日本では、スポーツ享受のあり方が大きく変わろうとしています。明治時代以降、スポーツは主に学校を活動基盤として普及してきました。しかし近年、地域を基盤としたスポーツの展開が目まぐるしく見られます。

また、スポーツと言えば、青少年の健全育成のためのものという考え方が一般的ですが、今では青年期に限らず人生の全てのライフステージにおいて、それぞれの体力・能力、目的に応じて、豊かで充実した生活を楽しむためのスポーツという「生涯スポーツ」が重要視されています。

私の専門領域はスポーツ社会学ですが、生涯スポーツの振興を研究テーマとしています。例えば、奈良県内の地域スポーツクラブの実態調査や、運動部活動と地域スポーツクラブの連携のあり方、障害者スポーツ振興の問題点について研究しています。

スペクテーター・スポーツ

もう一つの私の研究テーマは、スペクテーター・スポーツ（見るスポーツ）に関するものです。スタジアムでプロ野球観戦者にアンケート調査を実施したり、応援行動を観察したりしてきましたが、数年前からプロ野球の私設応援団の参与観察を始めました。スポーツ観戦を介した自発的な集団が如何に形成され維持されるかを描きたいと思っています。

スポーツの常識を疑う

学生さんたちには、やって楽しく見て面白いスポーツの魅力や、他の人たちに伝えることができるようになって欲しいと思っています。でも、スポーツの世界にどっぷりと浸かってしまうのではなく、常に健全な懐疑心をもって、スポーツ現象を見てください。生涯スポーツは、スポーツ活動のシステムを総合的に見直していくための考え方や、つまりスポーツ制度の再編成（改革）の原理・発想でもあるのです。



地域の車椅子ツインバスケットボールチーム「プロス」の練習への参加（於：奈良市総合福祉センター）

困難を抱える子ども・青年に権利としての教育を

教育実践開発講座・准教授

越野 和之

■教育を受ける権利と障害のある子ども

日本国憲法（1947年）は、すべての国民の「ひとしく教育を受ける権利」を謳っています。しかし、この憲法の下でも、障害が重かったり、二つ以上の障害を併せ持つ場合は、戦前に引き続き、なごらく教育を受ける権利を奪われてきました。文字どおりすべての子どもの「教育を受ける権利」を実現するために、養護学校教育の義務制などが実施されたのは1979年、今からわずか30年内外のことです。



障害児教育学演習の授業で

■1970年代以降の発展

私は、大学時代に障害の重い子どもたちと出会いました。ちょうど、養護学校義務制実施の直後の時期でした。それ以降、養護学校高等部希望者全入を求める取り組み、学校五日制を契機とした学校外の地域生活を豊かにする取り組み、毎日の生活のために医療的なケアを必要とする子どもたちの教育権保障の取り組みなどが続きます。養護学校義務制を二つの契機として、障害のある子どもの権利保障の取り組みが多面的に進んだのが20世紀の最後の四半世紀でした。

■当面の研究課題

私の研究課題は、こうした取り組みの到達点を確かめ、日本国憲法や子どもの権利条約などの指し示す「子どもの権利」「教育を受ける権利」などを、障害のある場合にもひとしく保障していくための課題を総合的に明らかにすることです。そのために、一つにはとりわけ戦後期における教育権保障の取り組みの歴史を、その発展の契機も含めて検討すること、二つにはそうした取り組みによってもたらされた教育権保障の今日的到達点を、地域格差なども含んでリアルに把握すること、三つには「教育を受ける権利」の内実を形成する教育実践に視点をあてて、その基本的な特質と、それが成り立つための諸条件を明らかにすることなどに、学生・院生のみならずとも取り組んでいます。

3K・4Kがまんして動物の追跡

自然環境教育センター・准教授

鳥居 春己



ツキノワグマに発信器装着中
(写真提供：五條市/岸本氏)

私は「野生動物との共生」を目指して各種の調査を実施しています。最近では共生と言う言葉が頻繁に使われますが、非常に複雑な内容を含む、動物と人間生活の調整だと思ってください。

■厳しい世界

現在は、奈良公園のシカを中心に調査を進めています。公園の周囲で首輪をしたシカを見つけたら、それは行動圏調査用の発信器を付けたシカなので、そつとしておいてください。ところで、野生動物の調査というと、

格好良く聞こえますが、実際は大変な作業なのです。それは、生きた動物はもちろん、死んだ動物も対象となるからです。行動圏は生きた個体に発信器を着け、後を追跡して確認します。奈良公園ではシカの脇に立つて、何をどれだけ食べているかを直接観察もしています。また、彼らは夜も活動しますから、彼らの生活を理解するには夜も追跡しなければならず、大変きつい調査になります。

■死体は語る

一方、死体には死体からでないと思われる情報が沢山あります。今までに持ち込まれた死体はネズミからクマまで大きさも様々でした。

シカの歯を削ることで、そのシカの年齢がわかります。それがたくさん集まるとシカの平均寿命が明らかになってきます。そのためには頭部を集め、肉を剥ぎ、煮出して骨にするという作業が先行します。

何を食べているかという分析では胃の内容物を採取し、栄養状態の分析には腎臓や脂肪などを採取します。その他にも、肝臓など多くの器官から寄生虫も探します。時には糞も拾ってきます。そんな訳で、実験室はひどい臭いのです。

他にも、「汚い」「きびしい」などのKがつきまといまいます。それでも、その先には新たな発見という大きな喜びが待っています。まずは臭さを経験し、ぜひ当実験室をお尋ねください。

韓国で

「こんにちはは！」

長安大学観光通訳日本語学科専任講師

笹本 明子

(平成16年3月大学院修了)

韓国語で日本語の授業

今年の3月から韓国にある大学で日本語を教えています。

今学期の担当は「教養日本語」。日本語学科以外の他学科の学生向けの第二外国語の授業です。日本語専攻ではないので、説明は韓国語で行います。私の韓国語力ではまだまだ足りないのですが、日本語の教師であり韓国語の学習者でもあることで、コミュニケーションの難しさと楽しさを再確認する良い機会となりました。

私の名前はオーサカセンセ？

日本語学科の修学旅行先が大阪だったので、出発前にある学生に関西の話をしました。直接教えていませんが、私に会うと「オーサカセンセ！」と声をかけてくれます。私の名前はもちろんちゃんと知っています。実は、「○○サカ」というお名前の先生がいらっしゃるのです。「○○サカ先生がいるから、先生（私）はオーサカ先生です」。学生の発想は本当に面白いです。

知識と自然さの間に

ある日の午前11時半頃、日本語学科の学生に「こんにちは」と挨拶をしたら、



大学祭で日本語学科の学生と (左から2番目)



「今何時ですか？」と言われました。なぜ挨拶をせずに時間を問われたのか一瞬戸惑いました。実は、時間に関係なくいつでも「アンニョンハセヨ」と挨拶する韓国語と違い、日本語は時間帯によって挨拶の言葉が変化すると習っているため「まだ午前中のはずなのに…」という気持ちで言ったらしいのです。しかし、挨拶の返答としてはやはり不自然で、相手によっては思わぬ誤解を生むこともあります。上級レベルの学生でも、知識に縛られ会話が成立しないことがあるのだなと痛感しました。文法や語彙を確実に学ぶことはもちろん重要ですが、さらに「自然な」日本語の運用能力も並行して目指し、少しでもその助けになればと感じています。

夢の甲子園へ

愛知県立中村高等学校・教諭

田川 誠

(平成11年3月教育学部卒業)

夢への第一歩

初任者として本校に赴任し7年目を迎えました。小学校教員養成課程を卒業したのですが、どうしても監督として甲子園に出場したいと思い、高校教師にこだわり続けました。高校球児としての甲子園への夢が破れてから7年後、3度目の採用試験で再び夢への挑戦権を獲得しました。

夢への第一歩として、まず目標としたのは190校中38校しか出られない県大会への出場でした。目標を達成できたのは、6年目の春でした。本校にはバックネットやマウンドといった野球のできる環境がなく、思うような結果が出ない日々が続きました。そんな中、心の支えとなったのは、ひたむきに練習に取り組む部員たちの姿でした。練習方法に工夫を重ね、他校にはない自分たちの野球を貫いた結果でした。「努力は報われるとは限らない、でも努力しなければ絶対に目標は達成できない」と生徒に語りかけ、6年にわたって生徒とともに必ず報われる日が来ると信じ続けてきた目標がやっと達成できたのです。

努力し続ける限り…

大学では、多くの判断が個人に委ねられます。その中で、専門的教養を高め、社会人としての適切な判断力を養っていく場所こそが大学なのです。

私は硬式野球部に所属し、主将として練習計画から采配までを任ざられてきました。それについて仲間と熱く語り合ったことが、今に生きています。失敗もたくさんしました。「次は成功したい」「絶対勝ちたい」という思いへとつながり、必死で努力しました。それでも思いどおりにいかないことの方が多かったように思います。しかし、私は努力し続ける限り、いつの日か目標は達成され、夢は叶うと信じています。



第88回全国高等学校野球選手権愛知大会にて (左端)



学祭にて(右から2番目)

北の大地での 教員生活

北海道東海大学工学部海洋環境学科・講師
齋藤 裕美
(平成9年3月教育学部卒業・平成11年3月大学院修了)

自分でも意外ですが…

奈良教育大学を卒業して8年になり、私自身思いがけない事ですが、多くの同級生達と同じように私も先生になつていきます。

現在、北海道東海大学工学部海洋環境学科にて講師として着任し、2年になります。専門は水域のさまざまな生物とそれを取り巻く環境との関係をおつかう群集生態学で、私は海洋や河川・湖沼の多様な水域の生態系のシステム

を紹介したり、水産生物のデータをパソコンを用いて統計解析する手法等を授業で教えています。

現在の私は奈良教育大学生時に「川の生き物を研究したい」という夢をかなえる事ができ、またそれが職になった事で本当に幸運だなと思います。

大学の授業にて役立つ経験

現在の職にて、一番役立っている奈良教育大学での経験は「授業」の組み立て方を教育実習で習った事です。

大学の授業は、自分で約半年分の授業内容を決定しますが、その内容も特に「コレを教えない」というものはありません。特に、確固たる証拠のない新しい理論を授業で紹介する場合、私は大変心細いものを感じます。しかし、私にとって附属小学校の教育実習にて経験したシラバスの作成経験は、時間や内容こそ違いますが、理論的に展開する授業の組み立て方の基礎として多くに役立っています。

学生と共に一喜一憂

赴任して2年と教員としてまだまだ未熟な私ですが、赴任当初、大学の教員は学生生活の最後の先生になる事で、私は社会に出る前の学生に何かできるのだろうかというプレッシャーを感じた事もありました。しかし、最近では背伸びせずに学生たちの就職活動の結果や卒業研究の成果に共に一喜一憂しながら、今の自分のできる事を精一杯やっています。

あ ・ と ひ

子どもたちの 成長が1番の やりがい

岸和田市立東光小学校・教諭
高見 真依
(平成17年3月教育学部卒業)

今年で教師生活3年目を迎えます。

私の勤務する小学校は、病弱・肢体不自由の障害のある児童を受け入れるセンター校であるため、市内全域から障害のある子どもたちが通学しています。そのため、ほとんどの通常学級に1〜2名の養護学級に在籍する児童がいます。最初に受け持ったクラスには、ダウン症の男の子がいました。どんなふうに関わったら良いのだろう、教師の



春の校外学習 クラスの子どもたちと(上段右端)

仕事も学級担任も初めてなのに…いろんな不安がありました。

しかし、この2年間で感じたことは、担任の思いはクラスの子どもたちに必ず伝わるということです。いろんな行事や活動で、「障害があるから、みんなと一緒にできない」のではなく、「一緒にできることを考える」ことを大切にしてきました。「みんなちがって、みんないい」。違いを違いとして認め合えるやさしさが子どもたちの中に芽生え、一人ひとりが輝けるクラスを今年も作っていきたくと思っています。

パワーをくれる子どもたち

大好きな子どもたちと共にすごした2年間を終え、今年はまだで宇宙人のような1年生の担任。話が通じなかったり、時には意味のわからないことを言ってくれたりしますが、この子たちもあと3年経ったら、昨年受け持った子たちみたいに、いろんなことができるようになるだろうな…という成長の楽しみを思い描きながら毎日を送っています。

「高見先生！がんばって！」と、忙しくしている私に廊下からエールを送ってくれる昨年担任した子どもたちに元気づけられながら、「たかみ まいせんせい〜！」とフルネームでひっきりなしに呼んでくれる1年生の子どもたちと一緒に成長する毎日。いろんな出会いのある学校で、子どもたちにパワーをもらいながら、これからも元気いっぱい、先生という仕事を楽しみたいです。

いつも「子どもたちのために」という思いで

奈良県警察本部生活安全部少年課・

課長補佐（少年サポート担当）

植村 育代

（昭和53年3月教育学部卒業）



少年被害者支援専門部会での司会（左上）

突然の異動

今年3月の異動で、奈良県警察本部少年課への派遣を命ぜられました。主な仕事は、学校や教育委員会と警察との連携のための調整、少年サポートセンターの職員たちと被害防止教室や防犯教室、街頭補導、事件に関係した被害少年の立ち直りのための相談業務等の仕事をしています。最近では、7月

7日に開催された「青少年健全育成奈良県大会」の準備に走り回っていました。

国語の教師から指導主事に

ももとは、高校の国語の教師として20年近く教鞭をとっていました。が、教頭試験に合格してから大きな転機が訪れました。まず県立教育研究所の指導主事になり、6年間小中高の国語教育や学校図書館教育の指導、評価の研究、全国の研究所連盟の大会の運営や研究のまとめ等をやっていました。指導主事になってからは、大好きな生徒たちとかかわることはなくなりましたが、その代わりに小中高や全国の教育研究所のいろいろな先生方と知り合うことができました。

生徒たちとのかかわり

その後3年間高校の教頭を務め、現在に至っています。教頭時代には、生徒のカウンセリングや国語の先生方と一緒にディベートの授業を行うなど、少しでも先生方や生徒たちとかかわる時間を持てるようにしました。教師というものは、やはり生徒たちと接することが一番大切なことだと思います。

最近、青少年にかかわる悲惨な事件が後を絶ちません。とても心が痛みます、どこにいても、どうしたら子どもたちが安全で楽しい学校生活を送れるのかを考えながら、頑張っていきたいと思っています。

れ ・ こ れ

知的財産の出前授業に関わって

大西特許事務所弁理士

大西 正夫

（昭和61年3月教育学部卒業）

弁理士って？

弁理士は、現在全国に約7200人おり（2007年3月31日現在）、特許権や商標権を取得するための出願の代理、発明や特許に関するコンサルタン、特許権侵害訴訟での代理人などを主な仕事にしています。おそらく、奈良教育大学OBで弁理士になっているのは、私一人ではないでしょうか。

知財授業に関わって

私は、以前から知的財産権の講演を企業、公的団体、大学で数多く行って



小学校での出前授業（中央）

きました。さらに最近、弁理士が小学校にお邪魔して知財に関する授業を行う「弁理士による出前授業」にも関わることになりました。

この出前授業は、「発明は難しく、発明を考えるのは楽しい。発明はみんなの生活を豊かにする。人の発明をまねだけするのはよくない」というコンセプトを伝えるための、コントやクイズなどのエンターテイメント（？）です。この出前授業を通して、「発明を考えることの楽しさ」などのコンセプトが子どもたちに少しでも伝わればと考え、いろいろと工夫をしています。

その工夫の結果でしょうか、授業の途中までは「偽物でも安ければ良い」とする子どもが圧倒的なのですが、授業が進むにつれて「偽物は良くない。まねは良くない」と考える子どもが圧倒的に多くなります。

やっぱり教壇は楽しいな

教育大学を卒業しながら教壇に立つことがなかった私ですが、この出前授業のおかげで小中学校の教壇に立つことができました。出前授業は、子どもたちの真剣な眼差しが注がれるので、企業や大学で行うものと違った緊張感があります。子どもたちの素直な——ときには思わぬ——反応があるので、私たち弁理士にとっても非常に楽しいものです。

この出前授業を通して、「知識は人に教えることによって本当に自分のものになる」という言葉を実感しています。

出会いを大切に

岡山リビング新聞社・編集部

東田 実永子

(平成15年3月教育学部卒業)

仕事を通して日々成長

まだまだ新人と思っていた私も今年で入社5年目。だんだんと、中堅と呼ばれる立場に変わってきました。

私が勤務している「岡山リビング新聞社」では、30〜40代のミセスをターゲットにした無料生活情報紙『リビングおokayま』と『リビングぐらしき』を発行。

私は編集部で紙面の企画立案から取材、撮影、原稿執筆を行っています。発行は毎週。日々、締め切りと戦う毎日です。

さて、一言で生活情報紙といっても、ファッション、グルメ、住宅、金融、医療…ジャンルは多岐にわたります。もちろん取材対象もさまざま。一般の主婦や子ども、料理人、メーカーの方、医師、時には有名人にインタビューできるチャ



社員旅行で上海を訪れて (前列右)

ンスもあります。

取材で楽しみなのは、その人の人となりに触れられること。輝いている人と接していると元気が出るし、自分にならないものを持っている人に会うと、刺激になります。取材は、知識の世界を広げてくれるだけでなく、人間力を養う場として大いに役立つのです。

また、この仕事をして何より嬉しいのは、読者や取材先から感謝の言葉をいただいたとき。倉敷の朝市を特集した時は、紹介したお店に長蛇の列が。言葉の持つ力に驚くと同時に、自分の記事に対して読者が混乱しないよう、責任を感じます。

貴重な大学生活

奈良教育大学で4年間勉強できたことに、今とても感謝しています。

それまで西洋美術ばかりに目を向けていた私に、新たに「東洋の美」を教えてくれました。明日香村で野焼きをしたこと、仏師の先生を招いて塑像を作ったこと、正倉院や博物館の修復工房を見学したことも忘れられません。こんな貴重な経験、普通に暮らしてい

ればできませんよね？

「学生時代は色々な経験をしておきなさい」とは、周囲や親からよく言われるのですが、まさにそう。何気ない経験もいつしか花咲く時がくるかもしれませんよ。

あ と ひ

絶対に絶対に絶対にできる！

奈良県総務部統計課調査第一係

温品 豊永

(平成14年3月教育学部卒業)

行政の仕事は最先端

奈良県職員となり、丸3年が経ちました。現在は統計課で執務しております。担当する仕事は、人口や国勢調査に関すること等です。統計課では、最新の統計データを把握することができ、社会のダイナミックな動きを日々感じています。

行政の仕事に携わっていると社会の最先端を走っているという実感があり、とてもやり甲斐を感じています。

問い掛けること

社会人となって以来、様々な人や環境等に囲まれ、いろんな刺激を受けながら、それでも頑なに変わらない自分が見えてきました。

同様に、必ずしも奈良県が一個の人格を有する主体と考える訳ではありませんが、地方自治の本旨という制度を踏まえつつ、奈良県を奈良県たらしめているのは何か、奈良県のアイデンティティのようなものを探っていきたいです。

奈良県とは？ 自分とは？と問い掛ける姿勢は、物事の本質を見極めようとするものであり、学問を修得する際



職場にて

奈良県と自分

の姿勢と共通するものがあります。つまり、学生時代の勉学が社会人になってからも生かせる訳ですし、生かせるくらい大いに勉学に励んでもらいたいと思っております。

単独では意味を持たぬことも、他と比較することで初めて意味を持ち、理解が可能となることがあります。例えば、時速100キロメートルの車が速いという評価は、時速50キロメートルが普通であるという前提があつて初めて理解が可能となります。今回は、比較的視点を通じて書きましたが、この視点は恩師である竹原教授から学んだものです。

今後は、奈良県と自分を比較しつつ「絶対に絶対に絶対にできるんだ」という強い気持ちを持ち（この気持ちを持つことで見えてくるものがあります）、生きていきます。

留学生レポート

私の留学体験記 in ハイデルベルク

総合教育課程生涯学習コース 4 回生

山根 絵美

from Germany



語学学校の友達を寮でパーティー (中央の右)

一言だけ 口に出せたのは「ありがとう」の

2005年8月1日。長年の夢だった留学を実現させ、私はドイツのフランクフルト空港に降り立ちました。その時の私

は、道案内をしてもらうにもドイツ語をまともに話すことができず、口に出せたのは「ありがとう」の一言だけ。「こんな状態で、1年間やっていけるのだろうか」と、不安で仕方なかったものです。

国際色豊かなクラスや舞台制作

最初の半年間は、語学力をしっかりと身に付けるために大学の語学コースに通いました。クラスはいろいろな国からやってきた留学生たちで構成されており、単にドイツ語を学ぶだけではなく、授業を通して互いの国の文化などを話し合うなど、国際色豊かなものでした。

ある程度の語学力も付いた残りの半年は、教育学の授業や日本語の授業に参加しました。また、日本語を勉強している学生さんと日本人留学生の合同で演劇をするという企画にも参加し、お互いに日本語、ドイツ語を交えながら一つの舞台を作り上げるという貴重な体験が出来ました。

遊び、飲み、踊り、学んだ1年

とはいえ、真面目に勉強ばかりしていたわけではありません。ドイツといえばビール！というところでビールを飲みあさったり、ヨーロッパの国々を旅行し、世界遺産や美術館などに足を運んで見聞を広めたりと、大いに遊び、大いに飲み、大いに踊った1年でした。

楽しい事ばかりではなく辛いこともあったけれど、ドイツでの生活は私を大きく変えてくれ、さらなる一歩へと導いてくれました。この1年間の留学生活で出会った人々、訪れた場所、経験したこと全て、かけがえのないものとなりました。心から感謝しています。

韓国との出会い

私が初めて韓国という国に出会ったのは、高校生のときでした。私の母校では韓国語の授業があり、修学旅行も韓国でしたので、自然と韓国という国を身近に感じるようになっていったのです。その当時は「面白い国だな」という程度の認識でしたが、縁があったのか、2004年8月から1年間、大学間学生交流協定を利用して韓国の嶺南大学に留学することになりました。

言葉の壁

高校で韓国語の授業があったとはいえ、留学当初は挨拶程度の語学力しかありませんでした。韓国語ができないためにコミュニケーションが取れず、悔しい思いをしたり、「何で私は韓国に来たんだ」と悩み込んでしまうこともありました。しか



韓国語クラス終了式にて (左側)

し、その悔しさをバネに必死で韓国人の輪の中に入り、少しでも多く韓国語に触れるようにしていると、徐々に韓国語が理解できるようになっていきました。

韓国人の友人と韓国語と日本語を教えあったり、一緒に遊びに出かけたりして過ごす時間は、私にとって教科書と向き合っただけの勉強より何倍も効果的だったようで、半年も経つと、韓国語での会話が苦にならなくなりました。

留学を終えて

韓国での生活は、言葉を始めとして、様々な壁にぶつかってばかりでした。しかし、留学を終えてみると、その壁こそが異文化に触れるということなのだと分かり、1年という非常に短い時間でありながら、とても充実した日々を過ごせたと感じています。これからは、奈良教育大学と韓国嶺南大学の交流が続き、一人でも多くの学生が旅立つことを願っています。

留学生レポート

韓国に留学して

大学院教科教育専攻 2 回生

佐伯 朋子

from Korea

留学生レポート

私が見た留学

日本語・日本文化研修留学生
(ドイツ・ハイデルベルグ大学)

ミットマン クリストフ

from Germany

ドイツ・ハイデルベルグから
日本・奈良へ

皆さん、こんにちは。はじめまして。私はミットマン・クリストフと申します。よろしくお願ひします。

2006年10月、交換留学生としてドイツのハイデルベルグ大学から奈良に来ました。私の大学では、外国語を勉強すると、その言葉が母語の国に留学するのが望ましいのです。私は日本語を勉強しているので、日本に行くのは当たり前ですので奈良にしました。

■異文化の国で暮らしてみよう

日本に来て以来、今は8カ月ぐらいたが過ぎて、その間いろいろな経験ができて、すごく面白い時期でした。学校の先生や学生と一緒に旅



正倉院の留学生体験展覧会で

行をしたり、自分にもたくさん旅をしました。もちろん、授業も受けたんですが、本当に魅力を感じられるのは自分自身のために興味深いことについて勉強しながら日本語を学ぶことです。

だが、一番印象的なのは異文化の国で暮らすことです。ヨーロッパなら、外国に行ってもその国と自分の国の文化は似ていますが、一方、日本ではそれはまったく違いますので、ここに住むことは新しい経験です。

■異国を知ることと母国を知る

長い間外国に住んでいると、両国の状態を比べる機会がしばしばあり、よく「ああ、そうなんや」とみえない感じがありました。すると、日本についての意見だけではなく、ドイツのことについての意見もちよつと変わりました。

まとめると、いろいろな国の人々との出会いができたり、異なる考え方をたくさん聞くことができるので、成長するためにも留学は役に立つというのが私自身の意見です。

■留学生生活を振り返る

月日の経つのは早い。今年で奈良教育大学に入って2年目を迎えました。振り返ると、この2年間は私の人生にとって、かけがえのない貴重な2年間でした。

「ただただ勉強したい」「学位を取りたい」という好奇心と功利心を持って日本留学に来た私は、奈良教育大学の先生方の指導の下で学問の厳しさを知り、勉強することは単なる知識や学位の獲得だけではなく、真理を追究し、自分を鍛えることであると分かるようになりました。勉強には問題を解決できなくて、解決口を探るために、迷い、疲れの時もあります。しかし、先生はそのたびに支えてくれました。絶望することなく、苦勞を厭わず、挫折を恐れず、孤独に耐えられる強い精神力が必要だということを教えてくれました。勉強することは苦しいかもしれま

留学生レポート

人生の中の かけがえのない宝物

学校教育教員養成課程言語・社会コース2回生

韓 浙竹

from China

せん。しかし、このような苦勞と引き換えに、学問は私に大きな喜びと充実感を与えてくれます。

■留学生生活の楽しさ

奈良教育大学での生活では、面白くて楽しいことがたくさんあります。毎年、大学は見学旅行に参加することや日本の伝統芸能などを体験するチャンスを与えてくれます。それで有意義な活動に参加して日本の文化に触れたり、自然を感じたりすることができるようになりました。本当に感謝しております。

■日本と中国の文化交流に

このような奈良教育大学での留学生生活は、自分を変えて、自分の人生の中でかけがえのない宝物になり、非常に満足しています。将来、自分が帰国し、日本と中国の文化交流のために貢献することで、恩師に、奈良教育大学に、そして日本の皆様に恩返しをしたいと思っています。



言語・社会コースのクラスメートと(2列目の左から3番目)

平成19年5月31日から6月2日の日程で、本学教職員4名が西安外国語大学を訪問しました。今回の訪問は、今後の学生交流及び教職員交流の促進と奈良教育大学の紹介を日本語専攻の学生の皆さんを対象に実施することが主な目的でした。

これまで、西安外国語大学と奈良教育大学との間には、2005年6月に交流協定が締結され、昨年10月9日から18日にかけて西安外国語大学から教員2名、学生9名を招いて国際大学交流セミナーを開催するなど、両校の間には交流促進への環境が整ってきま

た。西安外国語大学訪問の前日には、戸思社学長、劉越蓮副学長をはじめ、西安外国語大学関係者の方々にご出席いただき、歓迎レセプションを設けていただきました。このレセプションにおいても、今後の両校の交流について活発な話し合いが行われました。

翌日、西安外国語大学を訪問しました。西安外国語大学をはじめ多くの大学が、西安市中心部に所在していたものを車で30分位の郊外に集中的に移転したため、大規模な学研都市が形成されていました。それぞれの大学の敷地が数100万平方メートル以上もあり、建物の規模も大変大きく、教育環境の充実ぶりには驚かされるばかりでした。

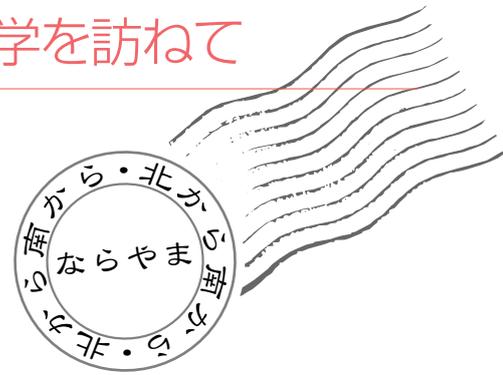
例えば、西安外国語大学では、正門を入ると写真の図書館（建築面積は4300平方メートル、各種蔵書126万冊）が正面にあります。数100メートルは歩かなければなり



図書館

西安外国語大学を訪ねて

学生支援課長
荻野 正之



日本語専攻の学生への大学紹介



国際交流担当者

せん。また、学生食堂は3階建てで、1フロアに1000人程度収容できる広さです。それが昼食の時間になると一杯になるのですから、学生が多いことを実感します（約1万8000名）。今後、敷地内に、ホテル、病院、宿舍等を建設し、学習環境はもとより生活環境も合わせて整えていくとのことでした。

午前中行われた交流の打ち合わせの結果、今後両大学で課題を引き続き検討していくこととなりましたが、西安外国語大学からは、奈良教育大学の学生を受け入れる際には中国語を話せなく

ても問題はなく、レベルに応じた指導を行うことができるとの提案もありました。

奈良市と西安市は、共に古都としての歴史的伝統を有し、市域には世界に誇る文化遺産が存在していますので、歴史、言語、文化等に興味のある学生の皆様は積極的に交流していただければと思います。

午後からは、西安外国語大学日本語専攻の学生（約200名参加）を対象に本学の大学紹介を行いました。日本語で説明したのですが、日本人の学生を対象に説明した時と同じところで笑いがあり、日本語の理解が優れていることと、日本への関心の高さをあらためて実感した次第です。

最後に、西安滞在中にご協力いただきました国際協力交流部をはじめ、関係者の皆様にお礼を申し上げます。

茶道部

心を育む空間を求めて・・・

総合教育課程 生涯学習コース 3 回生

茶道部部長 阪井香織

あなたの心に安らぎの場はありますか？

忙しい日々を過ごしていて、気づいてみれば次の季節を迎え入れていた、というような経験は皆さんありませんか。忙しさのあまり、夢への過程を楽しむことができずにいるのはとても悲しいことです。

茶道部では「限られた空間と互いへの思いやり」をモットーに、みんなで心の安らぎの場を創り出してまいりました。私たちが活動している茶室は、普段見過ごされていた大切なものが形を変えて主張する不思議なスペースです。隔てられた簡素な造りの空間において手にする硝子のお茶碗、そっと出される朝顔の和菓子：限定された空間における配慮だからこそ、それは一層際立つてそこにいるみんなをやさしく、穏やかな気持ちにしてくれるのです。

「思いやり」の心

茶道は規律や作法が厳しそうだと思評する人も多いようですが、実際やってみれば、「厳しさ」を感じることはありません。例えば、亭主（もてなす側）のお茶を点てる一つひとつの動作は、すべて客の立場を考えた上で生み出され、洗練され、今日まで伝承されてきたものです。一方、客はその好意に対する感謝の意を込めた動作

でこれに応えます。そこにあるのは互いの「思いやり」です。

茶道の「やさしさ・温かさ」

茶道は「何故そうするか」ということにさえ気づけば、作法の一つひとつはすべて必然であり、一見垣間見える厳しさも相手のことを思いやるが故の「やさしい」行為なのです。ですから、皆さんもこのやさしさ、温かさを私たちと共に感じてください。

「少し疲れたなあ…」そう感じたらいつでも遊びに来てください。一服のお茶を飲んで少し立ち止まれば、また元気に明日へ足を踏み出せるはずですよ。



卒業式にて



課 外 活 動

バスケットボール部

仲間と共に

総合教育課程芸術文化コース・3 回生

女子バスケットボール部主将 松岡奈々

私たちバスケットボール部は、男子バスケットボール部18人、女子バスケットボール部19人で活動しています。中学校や高校からバスケットを続けている人や大学に入って新しくバスケットに挑戦した人などレベルも様々ですが、リーグ昇格という1つの目標に向けて、みんなで力を合わせ、日々練習に励んでいます。

活動は主に火・木・土・日の週4回行っています。一番大きな夏のリーグをはじめ、近畿の国公立系大学の大会や西日本大会、京都教育大学との定期戦や全国の教育系大学との交流戦など、公式戦は年に7回ほどあります。また、練習試合も自分たちで交渉し、頻繁に行っています。

中学校や高校の部活と大きく違うところは、「自分たちで部を運営する」というところだと思います。部員同士で意見を出し合い、試行錯誤し、みんなで1つのチームを作り上げていく。そんな環境の中で感じることは、他の活動ではなかなか経験できないことも多く、自分が成長させてもらえる最高の場所だと感じています。



います。バスケットの技術だけでなく、チームを作り上げていくことの難しさや楽しさ、仲間と協力することの喜びなど、この部活を通して得られるものはたくさんあります。時には迷い、躓くこともありますが、切磋琢磨し一緒に頑張れる仲間、いつもそばで支えてくれるマネージャー、引退しても応援してくれる先輩がいるからこそ、目標達成に向け、チーム一丸となって頑張っていけるのだと思います。バスケットの技術はもろもろですが、一人ひとりが一回りも二回りも成長できる部活にしたいと思っています。

大学の 仲間たち



和名 クロコノマチヨウ
学名 *Melanitis phedima*
分類 ジャノメチョウ科
翅開長 65mmくらい

クロコノマチヨウ

チョウは多くが日向を好むが、この種が属するジャノメチョウ科のものはむしろ日陰を好む傾向にある。昼間は林など日陰の中を飛び回り、明け方や夕方によく活動する。また、本種も仲間のチョウの例にもれず地味な色彩で、地色はオスが黒褐色、メスが黄褐色である。前翅（ぜんし）は角張り、後翅（こうし）の一部が突き出ているが、これはこの仲間においてあまり見られない特徴である。

本科にはチョウの中では中型のものが多く、本種は例外的に大きく、ヒラヒラと優雅に飛翔する。コノマチヨウ類は熱帯、亜熱帯から暖地にかけて分布するチョウであるが、最近の温暖化にともない徐々にこれまで分布してなかった北方に分布域を伸ばしている。実習林のある大塔ではかなり以前から見られていたが、本学でも5年前ころから時々見られるようになった。本種はススキやジュズダマを幼虫が食するので、本学やその周辺では十分繁殖していると思われるが、私はまだ確認していない。今年の4月に冬を越して翅（つばさ）が破損した本種を附属幼稚園で観察したので、本学内や周辺で越冬したのであろう。

（自然環境教育センター長 前田喜四雄）

URL

<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/index.htm>



奈良教育大学 広報誌

第25号 平成19年7月20日
〒630-8528 奈良市高畑町
<http://www.nara-edu.ac.jp>

編集／広報・情報公開委員会 発行／国立大学法人奈良教育大学
TEL. 0742-27-9105 FAX. 0742-27-9141
kouhou@nara-edu.ac.jp